

医師は語る



医療法人社団健翔会
堀口医院 理事長
堀口 裕

病気の治療方針は

自己防御力の回復にある

人が健康で過ごせる否かは、その人の力次第です。この力を「自己防御力」と言います。自己防御力とは、自分で病気を防ぐ力強さのことです。人が病気になるのは、長年に亘って自己防御力が低下していたためです。したがって病気の治療方針は、常に自己防御力の回復を目指すものでなければなりません。風邪を引いた時の治療も、ガンになった時の治療も、治療の目的は自己防御力の回復になります。もし風邪を引いて発熱、喉の痛み、咳、痰、鼻水があれば、解熱剤、喉の炎症止め、咳止め、痰きり、鼻水を止める薬などが処方されます。高熱や喉の痛みがあると、身体がとてもしんどくて食欲もなく、風邪が長引いてしまいます。これらのお薬は風邪の諸症状を改善し、身体を楽にしてくれますが、同時に自己防御力の回復につながりません。実は熱や痛みがあること、そして

て食事量の低下は、いずれも自己防御力を低下させてしまいます。適切なお薬を使い、風邪の諸症状を無くすることは、自己防御力の回復につながっているのです。一方、ガンの治療も全く同じなのです。手術や放射線、抗がん剤治療は、もちろんガンの病巣を無くすことに役立っています。同時に自己防御力の回復に貢献しています。ただ、ときおり抗がん剤の多用によって、むしろ自己防御力がさらに低下することがあります。ですから十分な観察が必要です。改めて、すべての病気に対する治療方針は、自己防御力の回復でなければなりません。大病ほど自己防御力の回復に時間を要しますので、全力で取り組んで欲しいと思います。

炎症は病気を悪化させる

自己防御力は①細胞の元気度、②免疫力の丈夫さ、③炎症の鎮静度の3つから成り立っています。自己防御力の持続的な低下によって、すでに大病を発症している場合は、炎症の数値が大きいです。炎症は、病気の細胞を増加させます。すなわち病気がどんどん悪化します。炎症は、自律神経バランスと免疫バランスの不調によって起こりますが、特に免疫バランスの不調は、重大な炎症を引き起こします。日頃から免疫バラ

ンスを良くするために、幾つかのことに注意しましょう。免疫バランスはリンパ球や単球という免疫細胞によって維持されています。どんな仕事をするかと言えば、ガン細胞や風邪のウイルス、体内の壊れた細胞、異物などを除去します。それにより身体中の臓器を保護したり、手術や怪我の傷治りを早めます。

免疫力を高める三大要素

常日頃からリンパ球や単球を元気にし、不要な炎症を起こさないために、3つのことに注意しましょう。免疫細胞であるリンパ球や単球を車に例えることができます。車を走らせるためには、燃料(ガソリン)が必要です。リンパ球や単球の燃料は、グルタミンというアミノ酸です。グルタミンはよく似た言葉ですが、燃料にはなりません。グルタミンは小麦に多く含まれますが、サプリメントで摂取する方が良いでしょう。グルタミンは筋肉や腸粘膜でも沢山消費されますので、1日3グラムを目安にとって下さい。次に車が走るためには、エンジンをかけなければなりません。車のキーでエンジンをかけますが、リンパ球や単球で、車のキーに相当するのは亜鉛です。海のカキ(牡蠣)には多く含まれています。1日10ミリグラムの摂取が望ましいです。そして車が高速で走るため

には、アクセルが必要です。リンパ球や単球では、ベータグルカンと言う多糖体が優れています。海藻やキノコ、パン酵母由来などがあり、また化学構造的にも幾分違いがあります。私はハナビラタケから抽出したベータグルカンを用いています。私が行った実験では、リンパ球や単球の働きがとて良くなりました。上述したように、免疫バランスが悪くなると炎症を起こします。そのために免疫バランスを回復しなければならぬのですが、不用意に免疫細胞のアクセルを踏むと、炎症を起こすことがあります。そんな馬鹿なこと！と思われるでしょうが、事実です。それでアクセルを踏み過ぎて、急発進(炎症の誘発)させないようにすべきなのです。その点ハナビラタケは、炎症を起こさないようにアクセルを踏むことができます。世の中にこれほど素晴らしい食べ物があったことに、大変驚いています。実はこのハナビラタケの研究は、長年に亘って株式会社アトリー様もなさってきました。本当に素晴らしい着眼点をお持ちです。ハナビラタケ由来のベータグルカン必要量は、1日2グラムです。日頃から免疫バランスの回復に向け、全力で取り組みましょう。(次頁に続く)

病気は油断と過信から始まる

すべての病気の始まりは、油断と過信です。殆どの人は、私は若いから大丈夫とか、何も自覚症状が無いから大丈夫とか、毎年健診を受けているから大丈夫と言われます。しかし、若いのに大病をされたり、先ほどまで元気に喋っておられ、次の瞬間に脳卒中で喋れなくなる人もいます。油断や過信は禁物です。健康で過ごせるか否かは、その人の自己防御力次第です。常に努力して盤石な自己防御力を身につけて下さい。私は25年に亘って還元電子治療について研究していますが、この治療は自己防御力を回復させる目的で作られました。たまに行うのではなく、毎日実践してこそ有効です。できれ



図1 免疫力を高める三大要素

ば1日3回から5回ほど行って下さい。ときおり自己防御力診断を受け、合格していることを確認して下さい。そして、今後とも病気の無い、楽しい人生を送りましょう。

【堀口裕先生プロフィール】

北海道出身。川崎医科大学医学部卒業。一九九二年香川県坂出市で医療法人社団健翔会堀口医院を開院。現在堀口医院理事長兼院長を務める。世界で初めて細胞の中を調べる「細胞内検査」を独自に考案され、世界各国で特許を取得。またその細胞のコンディションを取り戻すための「還元電子治療」を独自に開発。二〇一一年五月、世界中医薬学会連合会、自然療法研究専門委員会、副会長に就任。現在は、病気の根を調べる「自己防御力診断」と病気の根を治療する「還元電子治療」を駆使し、全国で一万六千人以上の患者の治療に取り組む傍ら、「根元の医療」と呼ばれる新しい医療を推進し、全国で講演活動を行っている。